●「夏ではないから大丈夫」それは間違い！

◆春・秋のように気温が23℃～24℃でも
一時間後には43℃に上昇する
というテスト結果もあります。

◆逆に冬は温度の低下による低体温のリスクがあります。
暖房をつけていても、積雪時には排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れもあるため非常に危険です。

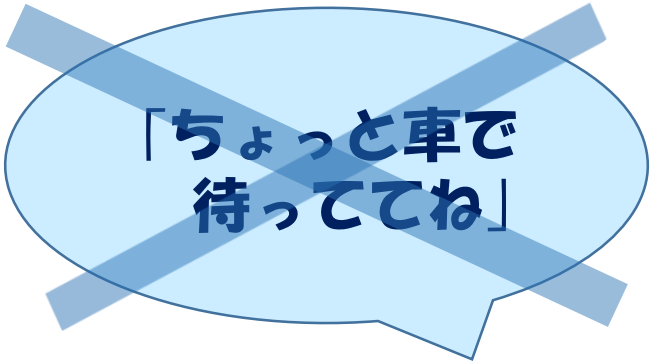
●車内放置がなぜ虐待？

虐待は「児童虐待の防止等に関する法律」（平成12年法律第82号）で、

「この法律において『児童虐待』とは保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、児童を現に監護するものをいう。以下同じ。）がその監護する児童（18歳に満たない者をいう。以下同じ。）について行う次に掲げる行為をいう」（第2条）と定義され、その行為として

「児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は **長時間の放置**（中略）**その他の保護者としての監護を著しく怠ること」**（第3項）があげられています。

児童を車内だけでなく、自宅などに放置することも、「児童虐待」にあたります。



子どもの車内放置は虐待です。

神奈川県児童相談所

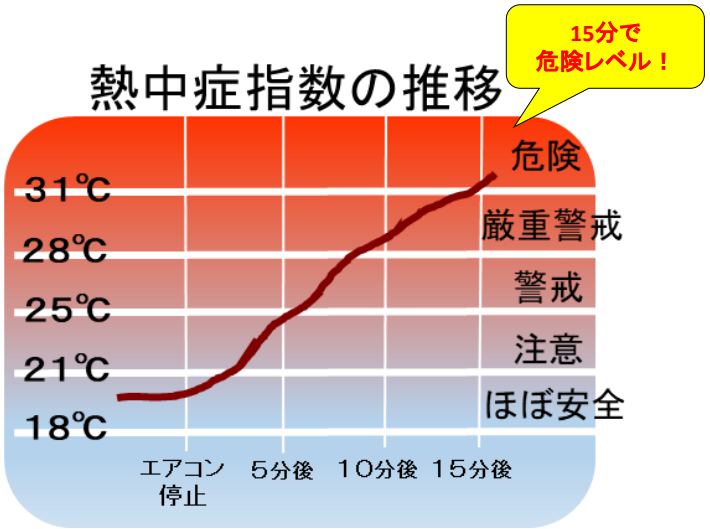
●短時間なら、子どもを車内に残しても大丈夫？

◆「寝ているから」「エアコンをつけているから」と、子どもを車内に残したまま車から離れることは、短時間であっても
大変危険な行為です。

◆特に真夏の日中は、エンジンを停止させ5分経過した時点で車内温度は約5℃上昇。

15分後には熱中症指数が、危険レベルにまで達し、車内の温度が50℃を超えることもあります。

◆特に乳幼児は体温調整の機能が未発達のため、高温下では短時間で体温が上昇し、
死に至ることがあります。



8月の晴天で外気温35℃、昼12時から計測。

●窓を閉め切った車両：ミニバン黒
エンジンを停止30分後には約45℃となり、
その後、車内最高温度は57℃まで上昇。

●窓を3㎝程度開けた状態：ミニバン白
エンジンを停止30分後には約40℃となり、
その後、車内の最高温度は45℃まで上昇。

窓を少し開けていても車内は厳しい温度。

※参考：検証テストデータはJAF（一般社団法人日本自動車連盟）ホームページの「JAFユーザーテスト」より。
https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test/temperature/summer

●他にもキケンがいっぱい！

✖子どもが目を覚ましたときに保護者がおらず、パニックになり車内で暴れてケガ。

✖車内でひとりになった子どもがスイッチ等を触り、サイドブレーキの解除など誤作動の危険性。

✖置き去りにされたトラウマで外出を嫌がるなどの精神的な悪影響。

✖車外に出て事故に遭う可能性。

✖急な体調の悪化。

✖さらに・・・
連れ去り目的の犯罪者にとっては「お父さん、お母さんを一緒に捜してあげる」など、子どもに簡単に近づくことができ、犯罪に巻き込まれる可能性も！